

報告

電動車椅子で巡る世界一周報告会～準備編～に参加して

光井 秀

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 社会リハビリテーション学科 4年

1. はじめに

2025年5月31日(土)にKOBE Co CREATION CENTER ルームA・Bにて、(一社)日本リハビリテーション工学協会と全国頸髄損傷者連絡会の連携セミナー『電動車椅子で巡る世界一周報告会～準備編～』が開催された。

私は登壇者のお手伝いをさせていただくとともに、興味深くセミナーを拝聴させていただいた。そこで、このセミナーの概要および感じたことや学んだことについて報告したい。

2. セミナーの概要

このセミナーでは、電動車椅子利用者の宮野秀樹さんが「電動車椅子で世界一周」に挑戦した実体験をもとに、旅に向けた準備の工夫や挑戦に込めた思い、旅を通じて得た学びについて語られた。

宮野さんは21歳で交通事故によって頸髄を損傷し寝たきりの生活となつたが、電動車椅子と出会って再び自らの意思で動き出すことを決意された。

また、宮野さんの挑戦とそれを支えるチームの姿を通して、適切な準備と支えを重ねることで困難を乗り越えていった経緯が紹介された。

3. 学んだこと・感じたこと

電動車椅子で巡る世界一周は、想像を超える困難が伴う挑戦であると感じた。宮野さんは、「電動車椅子でどこまで行けるのかを証明したい」「後悔して死にたくない」という強い思いを原動力に世界一周という大きな目標に挑戦されており、その覚悟に

強く心を打たれた。

今回の旅では、一般的な準備に加えて電動車椅子や頸髄損傷ならではの配慮も多く求められた。事前申請やバリアフリー確認、国内での練習など丁寧な準備が旅の安全を支えていた。そこから、見えないリスクへの備えや支え合いの大切さを学び、「行きたい場所に行く自由」は準備によって支えられているのだと感じた。過酷な挑戦の裏にある覚悟や工夫に触れて、多くの気づきが得られたセミナーであった。

4. おわりに

今回のセミナーに参加して、困難に挑み道を切り拓く姿勢に強く感動した。電動車椅子や障害に合わせた準備とチームの信頼関係が安全な旅を支えていた点が印象的だった。この旅で求められる判断力や観察力、関係性構築の重要性を改めて学ぶことができ、私自身も挑戦を支えられる人になりたいと感じた。



図1 セミナーの様子